

視聴覚教育

月報

NO.11

発行日	33.4.4
発行	岡崎市小中学校視聴覚教育協会
編集	視聴覚教育協会調査部
印刷	岡崎市明大寺町ブラザー孔版社 電 840

牛歩に寄りせて

美川中学校長 深津時二郎

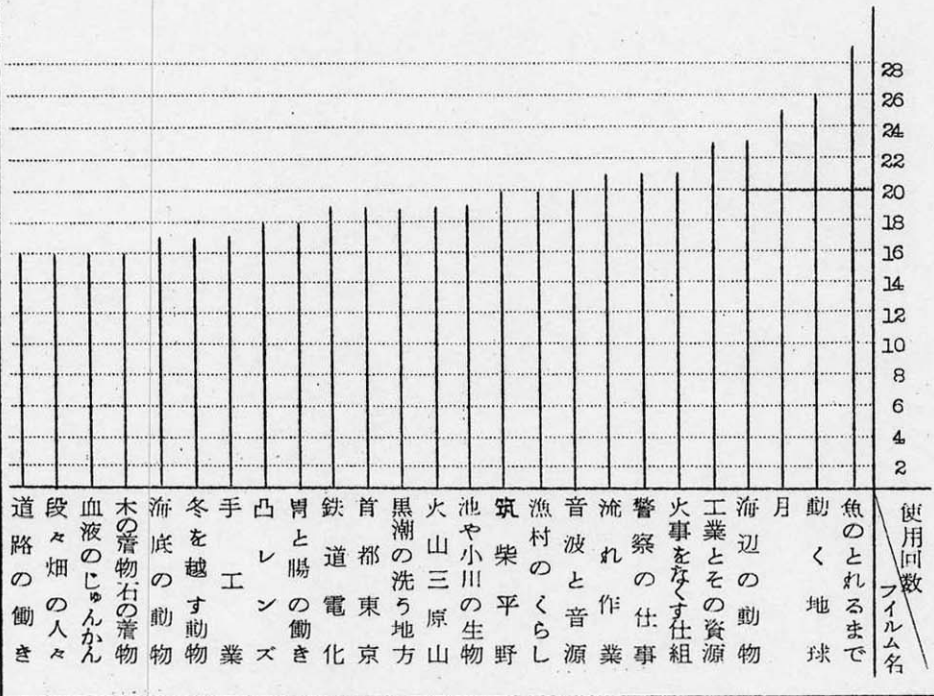
一九五七年は、いろいろの意味で、大きな変革期であったと思います。私にとっては特に意義深い年であり、一生忘れる事の出る一年でありました。科学は人工衛星の打上げに成功し、人類の世界を宇宙にまで拡大せましたし、教育の世界におきまして、いよいよ上教育テレビが本格的に登場してまいりました。この様に教具の新しい発展が学習指導の正しい有り方への研究に対する導火線の使命を果すべく視聴覚教育の研究に参加していただき、皆様と共にこの成功を祈念したいと思っております。

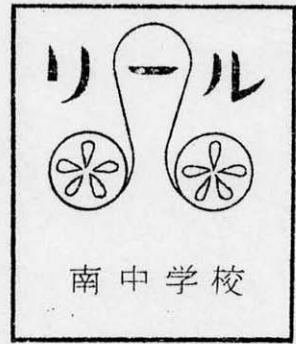
印刷文化の所産である教科書が、長い間教材として独立的な地位を占めていたのであるが、映画が教材として、つかわれるようになって、ひとつの教具革命が行なわれた事は間違いない、映画を教材とした学習指導の研究、学校ライブラリーの誕生とその成長については、県内外と比較して決して劣らぬ事を、皆様と共に私も確信しますが、然しこの事を全市全校の先生が、具体的にあらゆる場で実践するとなると、決してなまやさしい努力ではすまされなれないと思えます。

岡東水海道小学校では戦後の混沌状態にあった社会科学学習に、新しい道をひらくための打開策として、いちちはやく視聴覚教育と取組み、この学校を中心に全市が一丸となり、映画は学習教材で、いわば共同で管理し利用する新しい教科書である、フィルムライブラリーも、その線にそってつくられた、と聞いておりますが学習と映画教材についての考え方を確立し体制をととのえる事に皆様と共に努力したいと思えます。

昭和三十二年度フィルム別使用状況

(四月～二月)





我が校の
視聴覚
施設弊見

イ 聴覚面 放送であるが、運営は生徒会放送部があたっている。企画・アナウンス・機械係とに分けられ、毎週火曜日に部会をもち、生徒が分業的に活躍し、大体成功している。学校放送の聴取は第一部は教科の必要に応じて録音し、第二部は毎日校内放送と共に第五時始業前二十五分間再生放送している。教師はその時間、全員HRにて指導し、その上、本年度より放送ノートを作製し、聴取状況は良好である。もちろんテーブコーダーはフル運転である。

放送機は相当古く、時々エンコする。テーブコーダーは一台で録音に事欠く事もある。事にあたって、教師も生徒も時々その施設の不十分を嘆いてはいる。しかし、現状において一応その利用に特別の困難もない所から、本校の視聴覚施設は比較的恵まれていると結論されよう。何故なら、例えば学校放送を有効に授業に利用しようとするれば、テーブコーダーの三台は必要だ。しかしこんなことは特別、視聴覚教育に関する研究会でもやらねばどこの学校でも整うはずがない。欲をいえば切りがないからだ。要は只現状のものをより良く活用し、その上で一つ一つ不備のものから整備することである。さて我が校の施設はこんな状態である。

- 放送室(約五坪・防音設備完備のスタジオ付)
 - テーブコーダー一台
 - 映写機一台
 - 幻燈機一台
 - カメラ二台
 - 暗幕装置取付教室三室(音楽・理科室及び図書館)
- この事は非常に恵まれており、特に図書館は昭和三十一年度卒業生の一父兄鶴田氏によって寄贈され非常に役立っている。次にこれらの施設の利用状況を概略しよう。



ロ 視覚面 前号リール登場の福岡小と同様、幻燈機一台で、その活用は不十分であった。教材映画も柴田正先生始め諸先生が相当利用はされたが、以前は暗幕装置の不備や、直接映写機をもたざる不便から実際には理想に程遠いものであった。しかし本年度二学期後半より非常に活用され出した。それは先ず、暗幕装置が三教室完備され、理科は専ら理科室を、社会科その他は図書室を、巡回映画は音楽室を利用することにより、教室の重なるアイロが解消されたことだ。第二に昨年末映写機を持たざる悲哀を脱却出来た事である。昭和三十一年十一月、父兄・教師・生徒の三者が一体となって廃品回収等の方法でその資金獲得に協力し、その熱意と努力により映写機購入の念願が実ったからである。それ以後教師の技術修得と相俟って、教材映画利用は急激に上昇したわけである。こんな所にも始めて述べた如く、本校の視聴覚環境が比較的恵まれているといった所以がある。



実践記録

教材研究部

実践記録というには余りに粗まつですが、左に展開例と二、三
気付いた点を書いて見ます。

(社会科)

単元 新国道

目標 道路は産業発展の基盤で、その拡張や改修は地方全体、日
本全体の産業発展との関係から進められねばならないこと。

…… 後略

指導の計画

○交通の状況をいろいろ調査して、道路と産業との関係を明らか
にする。(五時間) 4/5

○道路の拡張や改修のようすを調べて、それに産業の発展との関
連のもとに計画され、その実現には多くの困難があることをは
っきりさせる。(四時間) 後略

本時の目標

トラック輸送は工場の生産活動と深い関係があること。

本時の問題

工場の生産のしごととトラック輸送とはどんな関係があるか。

本時の学習計画

目 標	トトラック輸送は工場の生産活動と深い関係がある。
問 題	トラックは何を、どこからどこへはこぶのか。
教 材	映画「道路のはたらき」の中の産地から工場、工場から消費地へ原料や製品が送られて行く画面

○原料や製品の輸送にトラックが多く利用されている。

○それは便利で経費が安いからである。

産業を発展させていくためには道路について多くの問題がよこたわっている。

今日の道路は、トラック輸送に不便な点がないだろうか。

同じく狭い道路、じゃり道、鉄道との交叉など、トラック輸送をさまたげている画面。

同じく積みおろしが容易で、荷づくりがかんたんで、経費も少ないこと。

反省 1 教材映画の位置づけを適正にする。：前時で国道の交通量調査をし、輸送先、品物が不明だったからこの点を調べるために映画を見せたが、必要感が乏しく、後の処理にはっきり出た。

2 映写前に見どころをはっきり理解させておく。：二巻で、他の画面に幻惑されて、漠然と見た者が多かった。

3 困難な解説話や画面の説明を加えておく。：むずかしいことは複雑な画面は事前に説明し理解しやすくしておく。

あとがき

一年間皆様と一緒に進んで参りました。この月報も、係の怠慢から大変迷惑をおかけいたしました。お詫言ひ致します。

来年度はまた新しい構想を一年間もふりかかえつて、報となる事を期します。

十二年度の総決算を一年間もふりかかえつて、報となる事を期します。

二十年度の最終号を送り出す言葉として、映画が使用されること、御覧の希望